

# 早期流産

授精が成立したら 98%は受精卵（妊娠）となるが、その後、約 60%の妊娠が駄目になると報告がされています。

妊娠失敗の原因は流産（妊娠 42 日以降に起こる）と知られていますが、それは氷山の一角にすぎず、殆どが胚死滅によるものとされています。授精後 5~25 日に起こるものを早期胚死滅、26~42 日に起こるものを後期胚死滅と呼ばれ、受胎率低下の大きな要因の一つとされています。

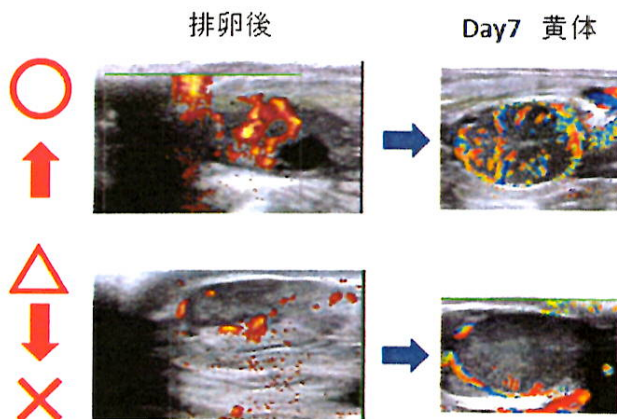
## とても重要なプロゲステロン

卵胞発育期にはプロゲステロン（P4）を高く保って卵子の質を向上させ、人工授精直前に P4 をしっかり下げる事で受精が起こりやすくなります。さらに人工授精後は再び高い P4 を維持する事で胎児の発育や胎盤形成を助けるとされています。

妊娠が成立すると黄体からの P4 分泌が続き、妊娠 3 ヶ月頃から胎盤が黄体に代わってホルモン分泌の役割を果たすようになります。そのことから、黄体から出る P4 濃度が早期流産を防ぐのに重要とされています。

## 卵胞血流量の差による早期流産率

卵胞血流量が良いと排卵後の血流量にも差があり結果、良い黄体が出来やすい傾向があります。



そこで、卵胞血流量の差が早期流産と関係性があるのでは無いかと思い調べてみました。

## 卵胞の血流量差による流産

- AとB農場の3月~10月末までの早期流産
- 14頭
- ○ 0頭
- △↑ 0頭
- △ 2頭
- △↓ 9頭
- 不明 2頭



授精後 30 日妊鑑から 60 日再妊鑑までの間に流産した牛から授精時の卵胞血流量を調べてみた結果、早期流産した殆どの牛の卵胞血流量が低かった事がわかりました。

まだ、この事に対する解決策がわからない状態ですが、妊娠喪失の予防による受胎率向上のためには手軽に始められる改善策はなく、飼養管理の改善に対する地道な取り組みが必要なのだと思います。

今後も引き続き調査を行っていきます。

太田